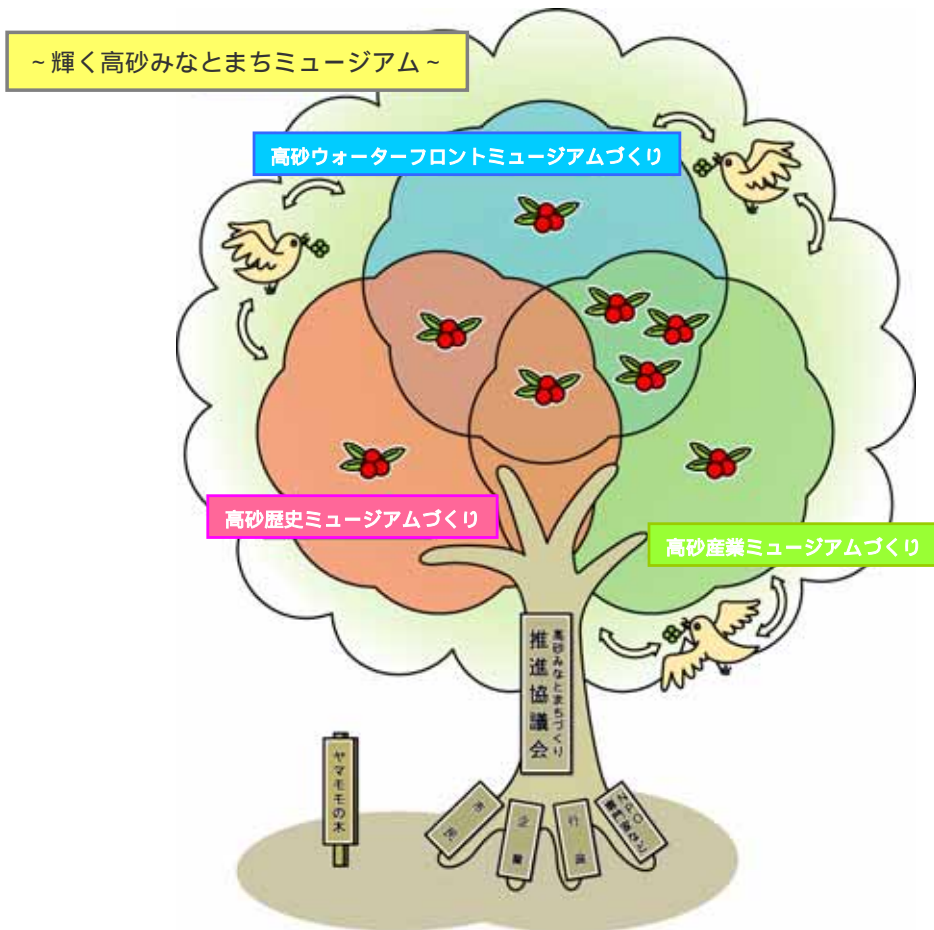


# 高砂みなとまちづくり構想



## 高砂みなとまちづくり構想策定懇話会

## はじめに

播磨沿岸に位置する高砂市の臨海部は、南は瀬戸内海播磨灘を臨み、東は加古川の清流が南北に走り、その豊かな水利は優れた景観、肥沃な土地となって市民生活の大きな根源となっています。高砂市は、加古川河口に堆積した砂浜地帯に発展してきたまちであり、古くから加古川の水運と瀬戸内航路とをつなぐ拠点として栄え、港とともに播磨地域の発展に貢献してきました。その後、高度経済成長により、かつては美しい白砂青松をおりなしていた高砂の海岸線は多数の工場が立地する臨海工業地帯へと姿を変えてきました。

現在では、近年の臨海部立地企業の活力低下や「ゆとり・うるおい」への国民ニーズの変化等が相まって、工業専用地域が大半を占める臨海部のあり方を市民と共に見直すことが求められています。

高砂みなとまちづくり構想は、このような背景をもとに、高砂が有するさまざまな資源を活用するとともに、周辺地域と連携しつつ、それぞれを調和・ネットワークさせる「輝く高砂みなとまちミュージアム」を参画と協働により目指すものです。構想の策定にあたっては、資料を一般公開しながら市民主体の懇話会を三回開催するとともに、市民アンケートやパブリック・コメント手続きを実施し、広範な意見を収集しながらとりまとめてまいりました。

今後は、この構想の基本方針である「高砂ウォーターフロントミュージアムづくり」「高砂産業ミュージアムづくり」「高砂歴史ミュージアムづくり」の三つの柱の具体的実現に向けて、自主的な参加者を募り、各々自らの主体性により展開していきたいと思えます。そして市民が誇りに思うことができる高砂、自信を持って子供達の世代に引き継ぐことができる高砂となるよう、市民、企業、行政等の多様な主体の参画と協働によって、構想の実現が図られることを希望します。

最後に、この構想の策定にあたりましてご尽力いただきました高砂みなとまちづくり構想策定懇話会委員の方々に厚くお礼申し上げます。

平成 17 年 3 月

高砂みなとまちづくり構想策定懇話会 座長

神戸芸術工科大学大学院

齊木 崇人



# 目次

---

第1章	構想策定の趣旨	1
	1. 構想策定の背景	1
	2. 構想の目的	1
	3. 構想の考え方	3
第2章	現状と課題の分析	5
第3章	基本理念の検討	12
	1. 基本理念と基本方針	12
	2. 基本方針の展開方向	14
第4章	構想内容の実現化方策の検討	17
	1. 基本方針の実現に向けて	17
	2. 空間利用の方向性	20
	3. 実現に向けた推進システム	22
第5章	高砂みなとまちづくりを先導するプロジェクト（先導プロジェクト案）	25
	1. 先導プロジェクト案	26
	2. 高砂みなとまちづくり構想図	32